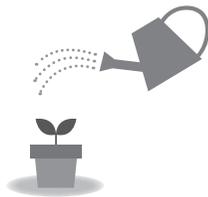


## 今月の ブックトーク



## 4月(卯月)新学期

前田 由紀

／渋谷教育学園渋谷中学高等学校司書教諭

新学期、期待と不安が入り混じる情景は、韓国の中学でも同様のようです。小説『チェリーシュリンプ



ファン ヨンミ・作  
吉原 育子・訳  
金の星社

わたしは、わたし』は、「ケックルクル、クラス替え、大成功!」のおまじないから始まります。中学2年のダヒョンは、仲良し5人組で行動していますが、皆と合わせるために本当の自分を出せずにいます。そこで、未公開のブログ、チェリーシュリンプでは、自分本来の姿を綴ります。チェリーシュリンプとは、小さな熱帯魚ですが、たくましい生命体。良いネーミングです。さあ、クラス替えはどうなったでしょうか。新しい仲間に出会い、「すっくと立つ木」に成長するダヒョンは、悩めるあなたにとってきっと心強い友となるでしょう。

新しい出会いの季節。次に工藤直子さんの詩「あいたくて」(『日本語を味わう名詩入門18工藤直子』)を紹介しします。「だれかに あいたくて なにかにあいたくて 生まれてきたー そんな気がするのだけれど」誰かに、そして何かにも私たちは出会うことを願っています。実際に、新聞社主催のワークショップで工藤さんにお会いしたことがあります。皆と握手をし



秋原昌好・編  
おーなり 由子・絵  
あすなろ書房

て、「これで皆さんとお友だちです」と言われ、心温かい方でした。印象に残っているのは、出された5編位の詩を読んで、その中から好きな詩を選んでそれぞれ語るのですが、その詩には作者名が書かれていませんでした。工藤さんが強調したのは、

作者が誰かで評価するのではなくその詩そのものに

対する自分の意見・感性を大事にしてほしいというメッセージです。このことはそれ以降、自分の意見に少し自信がもてるようになりました。

それにしても、ざわつく季節です。ここは、ひとまず落ち着きましよう。ドイツのトップリーグ、ブンデスリーガで長年活躍し、昨年引退した長谷部誠選手が、20代の時に執筆した『心を整える。』についてお話しします。この中に、「整理整頓は、人生の半分である」というドイツの諺が出てきます。整理整頓をしていれば、人生の半分は上手いくということ。多くのリーグ優勝をして運が良いと言われるそうですが、運をたぐり寄せる調整をいつも一人でしているということなのです。



長谷部 誠・著  
幻冬舎

最後の本は、新しい門出を祝して、最初に日本人としてノーベル賞を受賞した湯川秀樹氏の自伝『旅人 ある



湯川 秀樹・著  
KADOKAWA

物理学者の回想』です。どうして戦後まもなくノーベル賞を受賞できたのか。彼が幼少期から小中高そして理論物理学を専攻して、20代独自の仮説にたどり着くまでの若き日の軌跡が描かれています。「ただ、私は学者として生きている限り、見知らぬ土地の遍歴者であり、荒野の開拓者でありたいという希望は、昔も今も持っている。」

さあ、皆さんもこれから新たな旅の始まりです

